さんまの不漁の原因と改善

112班　後藤　理菜　芳賀　大輝　吉田　拓海　小山　国泰

1, 動機と意義

動機

新聞でさんまの不漁を知り、食べられなくなくなるのが心配だから。

意義

水揚げ量を改善することによる気仙沼の漁業の安定化

日本及び気仙沼の水揚げ量の推移（数量トン）

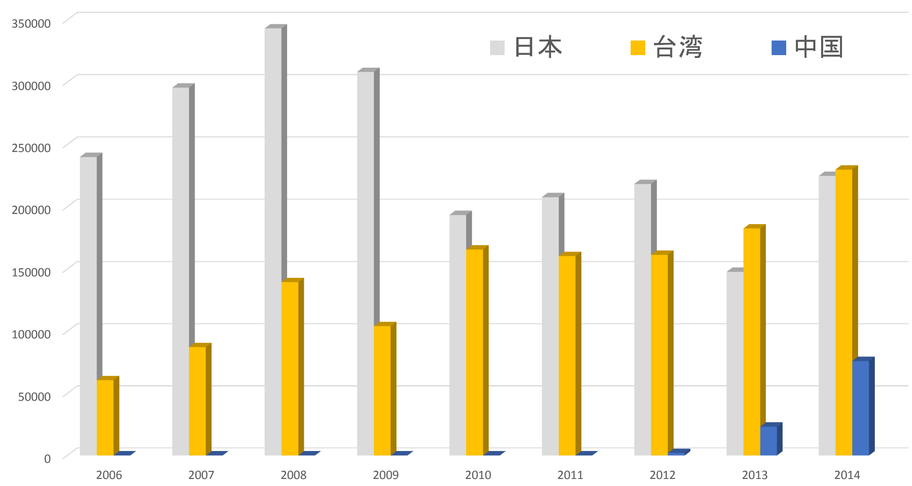
年々減少

（引用先）全国さんま棒受網全国さんま棒受け網漁業協同組合

2, 原因

原因①　外国のサンマ漁獲量の増加

各国の水揚量の推移（数量トン）

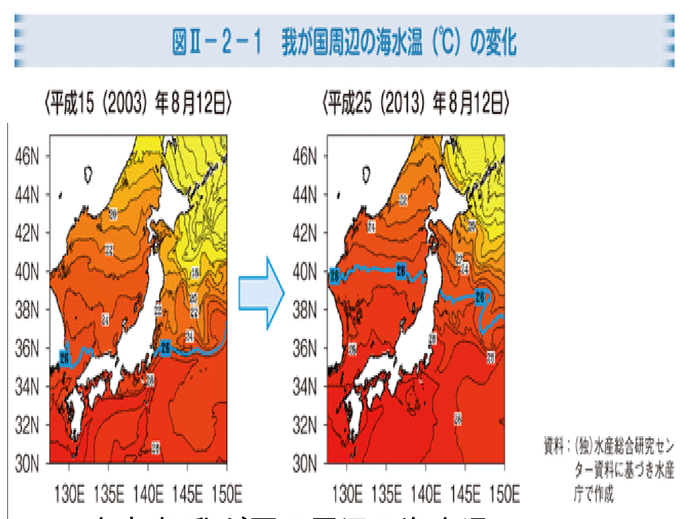


日本は減少傾向にあるのに対し台湾や中国は増加傾向にある。
主に日本は経済水域内で漁業しているが外国は公海でしており、台湾や中国は日本の経済付近で漁業している。

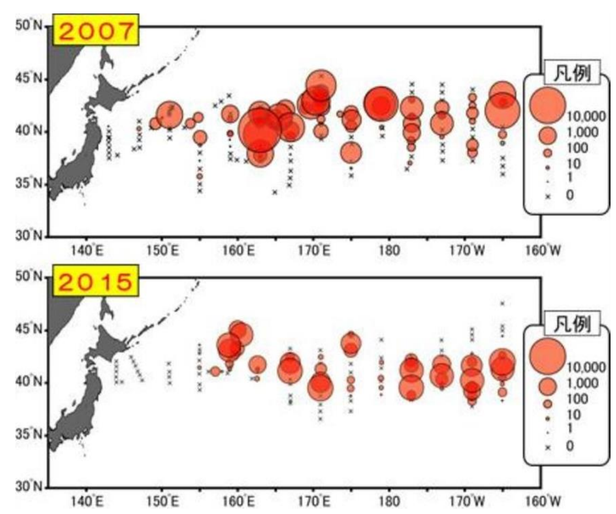
よって
「不漁」

改善案

原因②　日本近海による海水温の変化



水産庁/我が国の周辺の海水温



東北部水産研究所

日本近海の海水温が上昇している。その影響で分布が東寄りになる。
サンマは12度から18度の水温を好むため、
日本にあまり近づかなくなっている。

よって
「不漁」

改善案

3, 改善策

改善策①　公海への挑戦

日本は鮮度の理由であまり公海に獲りにいかなかったが、
公海に行くことで漁獲量を増やすことができると考えた。
　公海に行ってしまうとサンマの鮮度が落ちてしまうところを
日本の経済水域に生かして、または冷凍して持ってくることで、
鮮度はいつもの漁と変わらないのではと考えた。

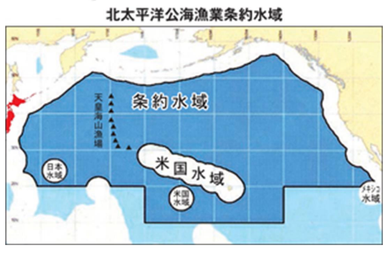
よって

鮮度を保つ技術があれば、漁獲量を安定させることができる。
だが、漁のコストが高くなってしまうことが心配である

改善策②　条約の正式な締結

北太平洋漁業委員会があり、日本、台湾、中国、ロシアなどが参加しているが、その条約は曖昧なものなので、厳密した条約を作るべきだと考えた。

北太平洋公海漁業条約水域



発行　2015年7月16日
日本の締結　2013年7月16日
参加国　日本、カナダ、ロシア、中国、韓国、台湾

改善策①　養殖

日本はサンマが取れない。
ならば、三陸沖で養殖することを考えた。
三陸沖には潮目がある。そしてサンマが好む水温に近いことか
三陸が適していると考えた。
養殖の技術面も発達してきて不可能ではなくなっている。
だが、サンマの値段は安いため、コスト的に厳しい

よって

サンマの値段の高騰とその需要が高くなれば実現可能。
また、養殖のコストが低くなれば可能である

課題

鮮度を保つ技術や養殖を実現するために必要なことについて、深く調べていきたい。

参考文献

「さんまをめぐる国際情勢や今期の来遊見込み」
http://www.suisan-shinkou.or.jp/promotion/pdf/shokutoryou25.pdf
「全国さんま棒受網漁業協同組合」
http://www.samma.jp/
「水産庁/我が国の周辺の海水温」
http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/h25_h/trend/1/img/f_092.gif
「サンマ北太平洋北西部系群」
http://www.yomiuri.co.jp/photo/20160928/20160928-OYT8I50025-L.jpg